古い友からの贈り物　その２

～成瀬あかりからのメッセージ～

子どもの権利擁護委員　関谷　道夫



そもそも主人公**成瀬あかり**の魅力はなんでしょうか？

この小説は、**主人公成瀬あかりの視点中心に物語が進行する**という構図ではありません。成瀬あかりと接する**登場人物の視点**から、成瀬あかりという人物像が次第に明らかになっていきます。成瀬あかりの立場から、実際に成瀬がどう思い？何を考えているか？は描かれていません。あくまで他者の目から映る成瀬あかりの描写です。

成瀬あかり以外の様々な登場人物は、どの人もごく普通の人たちという構図が面白いところです。普通の人たちの価値観というレンズを通すことで、成瀬あかりのユニークさが明確に浮かび上がって、魅力が倍増されています。

成瀬あかりの特性を、AI モード的に並べてみます。

① 他人からどう思われるかを気にせず、独自の世界を突き進もうとする。自分がやりたいと思ったことにまっすぐ挑戦する。動揺しない・ブレない芯の強さ、他人に迎合しないマイペースな姿勢が特徴。

② 遠い未来像と、具体的な目標の絶妙なバランス。「200 歳まで生きる」「膳所から天下を取る」といったスケールの大きいユニークな野望を掲げながらも、その時その時の具体的な目標を達成していく。

③ 成瀬は、仲間を求めて、孤立を恐れない。周囲を振り回しているようで、他者を大切にする誠実さと思いやりがある。当初の抵抗感・距離感が薄れ、次第に引き寄せられていく。

④ 随所に登場する尽きない地元愛が、親近感を広げている。

さて、成瀬あかりのような女生徒が近くにいたら、あなたはどのように関わっていくでしょうか？

多彩な才能と、独特な興味関心・信念の持ち主。端的に言えば、天才肌の良質な「変人」「変わり者」です。そのため小学生の頃はクラスで無視されたこともあったようですが、本人はまったく気にしていなかったということです。

周囲の目を気にせず自分の意思で行動する一方で、人を惹きつける不思議な魅力の持ち主です。周りの登場人物は、最初は戸惑い、振り回されながらも、最終的には良き理解者・支援者となっていきます。成瀬の独特な魅力を発見し、引き寄せられていきます。ここが大事なポイントです。離れていくどころか、強力なサポート役になるところが**“良質な人間関係”**を象徴しています。

一般に、身の回りにいる好意的な人物の姿に触れて、自分も同じような価値観を目指すこと、他者の行動を見て、自分の行動に確信を持つことはよくあります。

心理学では、他者（モデル）の行動やその結果を観察し、自分も同じような行動や反応を学習・模倣する現象のことを「**モデリング（社会的学習）**」と呼んでいます。モチベーションを高め、学習効果が高いとされています。身近に接する人物や熱心に取り組む行動によって、人格は大きく変化するといえます。

どんな人（仲間や先生や親、トップ選手やドラマの主人公…）と付き合うか、どんな経験を積み重ねるかで、どんな人生を歩むか方向づけられます。プラスにもマイナスにもなる怖い部分があります。



成瀬あかりを魅力的にしているのは、具体的な目標をストレートに掲げて、苦労とも思わず、まっすぐに実現しているところです。たとえば、西武デパートや観光大使…

自分の人生を豊かにする「**価値あるもの**」「**意義のあること**」「**元気になれること**」「**挑戦したいこと**」を目標に掲げ、実践しているのがすごいところです。

誰でも、**確かな未来イメージ・未来像・将来像**は、先の見えない混沌とした状況で、無意識の**“ナビゲーター”**になります。

私たちの多くは、小さい頃から、家庭や学校で、**ネガティブな側面**（欠点や短所）を繰り返し指摘され、それを修正・改善するように育てられてきました。それが教育の本態です。それよりも自分の中にある**ポジティブな側面**（強み・武器・優位性）を発見し、それを積極的に伸ばし、最大限に活用していこうという姿勢が乏しかった気がします。最新の心理臨床は、人間の最も変わらない部分を変えようとするのではなく、もっとも変化しやすい部分に着目して、重点的に働きかけていくアプローチが主流になっています。

成瀬あかりからは、自分のリソースとストレングス（個人の性格や才能だけでなく、周囲の環境や持っている資源なども含めて、その人が持つプラスの側面）を、最大化して生きている姿を感じ取ることができます。

（次回は、「我が塾の成瀬のお話」です。）